

研究・調査報告書

報告書番号	担当
130	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Patterns of alcohol consumption and the metabolic syndrome 飲酒パターンとメタボリック症候群	
執筆者	
Fan AZ, Russell M, Naimi T, Li Y, Liao Y, Jiles R, Mokdad AH.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Clin Endocrinol Metab. 2008 Oct;93(10):3833-8.	
キーワード	
アルコール摂取 メタボリック症候群 過量飲酒 短期大量飲酒 (binge drinking)	
要 旨	
<p>目的： アルコール摂取とメタボリック症候群とに関しては予防因子、危険因子であるとする両方の報告がある。これは飲酒パターンの違いや、メタボリック症候群の構成因子におよぼすアルコールの影響が因子ごとに異なるからかもしれない。本研究は飲酒パターンとメタボリック症候群との関係を検証する。</p> <p>方法： 1999-2002 年に行われたアメリカ全国健康栄養調査 (National Health and Nutrition Examination Survey : NHANES) は施設に入居していない一般住民成人を対象とした調査である。本研究では NHANES 参加者のうち、20 歳から 84 歳までの現在飲酒者で、メタボリック症候群関連の検査および飲酒パターンに関する調査を完了し循環器疾患を有さない 1,529 人を解析対象とした。メタボリック症候群の診断は以下の 5 項目の代謝異常のうちの 3 つ以上を有するものである、1) 耐糖能異常あるいは糖尿病、2) 中性脂肪高値、3) 腹部肥満、4) 血圧高値、5) 低 HDL-コレステロール血症。アルコール摂取の調査測定項目には、通常摂取量、飲酒頻度、および短時間大量飲酒 (binge drinking) の頻度が含まれる。</p> <p>結果： 地域、循環器疾患および糖尿病の家族歴、生活習慣を調整した多重ロジスティック回帰分析の結果メタボリック症候群のリスクと関連したものは次のものであった、米国食事ガイドライン推奨値を超えた一日あたりの飲酒(オッズ比 1.60、95%信頼区間 1.22-2.11)、一週間一回以上の binge drinking (オッズ比 1.51、95%信頼区間 1.01-2.29)。メタボリック症候群の個々の因子では、食事ガイドライン推奨値を超えた飲酒は、空腹時血糖異常 (impaired fasting glucose) または糖尿病、中性脂肪高値、腹部肥満、および血圧高値と関連していた。</p> <p>結論： 米国ガイドラインを上回る飲酒および短期大量飲酒 (binge drinking) が、循環器疾患リスクに関与している可能性があることを公衆衛生学上のメッセージとして強調すべきである。</p>	